

2018年度 日本臨床検査医学会 第3回 理事会（理事総会） 議事録

日 時：2018年9月1日（土）13：30～16：50

場 所：日本臨床検査医学会 事務所

出席：矢富 裕 理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳総務理事、古川泰司会計理事、東條尚子庶務理事
宮地勇人、メ谷直人、古田 耕、松尾収二、吉田 博、大西宏明、柴田綾子、下 正宗、藤井 聡、萱場広之、
東田修二、田中靖人、小柴賢洋、通山 薫、各理事、福武勝幸 監事
登 勉 日本臨床検査専門医会連絡委員（21名）

欠席：木村 聡、長沢光章、松永 彰 各理事、高木 康 監事（4名）

矢富裕理事長から挨拶があり議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の2018～2019年度の支部例会・総会予定、支部地方会予定、支部所属の人事変更等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（吉田 博 担当理事）

学術推進プロジェクト研究の最終報告は、研究期間終了後6ヶ月以内に臨床病理あるいは関連雑誌に原著を投稿すること、臨床病理誌以外に投稿の場合は、臨床病理に総説論文を投稿すること（6ヶ月を過ぎてもよい。）であるが、H26・27学術推進プロジェクト研究のうち2件、期日の2017年2月28日までに論文の投稿が行われていない事案があることについて報告された。

本件については、今回は、プロジェクト研究の状況を鑑み、学術推進化委員会では、2018年9月までに臨床病理に総説論文を投稿し、それで最終報告とすることで対応したいということであった。

そのうえで、本助成金は、その目的・趣旨に鑑み、果たすべき義務を厳格化し、次のように現行の規定を改定したいとの提案があった。

「研究成果は、研究終了後6ヶ月以内に学会誌「臨床病理」を含む関連雑誌に、原著論文として投稿するものとする。原著論文投稿が不能の場合は、「臨床病理」に 総説原稿を投稿する。また、「臨床病理」以外の雑誌に原著論文を投稿した場合にも、「臨床病理」に総説原稿を投稿することとするが、この場合は、研究終了後6ヶ月を過ぎてもよい。」

の、下線部分を「研究期間終了後6か月以内に「臨床病理」に総説論文を投稿することとする。」

との提案があった。

以上のH26・27学術推進プロジェクト研究のうちの2件への対応、規定の改定について承認された。

2) 教育委員会（山田俊幸 担当理事）

2018・2019年委員の分担について、第2回 医学生・若手医師のための臨床検査ハンズオンセミナーをワークライフバランス委員会、日本臨床検査専門医会との共催で、30年8月19日（日）に12名の参加者を得て、東京大学医学部附属病院 検査部医局 で開催したこと、第65回学術集会で教育委員会企画としてRCPC、Catch up セミナーを、11月17日に開催すること、RCPC、Catch up セミナー、学術集会でのEBLM委員会企画：医療ビッグデータの解析法をeラーニングとして希望者に有償にて配信する予定であることが報告された。

3) 標準化委員会（古田 耕 担当理事）

TSH標準化を目指して、現在、厚労省、学会、メーカー（臨薬協を含む）の間での協議が進行中であること、標準化委員会ホームページを、積極的な情報提供を目指して更新を検討中であることが報告された。

4) 利益相反委員会報告（古川泰司 担当理事、通山 薫 委員長）

日本医学会ガイドラインで、役員等には、過去3年間分のCOI自己申告を求めることを受けて、前委員会で書式改訂を進めたが、理事会で運用上の改善を求められたため、新委員会で検討し改訂案を提示することとなったことが報告された。

5) 遺伝子委員会報告（宮地勇人 担当理事）

厚生労働省 難病対策課より、医療法の改正に伴い、すべての検体検査に関して、「検体検査の精度管理等に関する検討会とりまとめ」への対応が必要であり、当課所管の各大学等の研究室単位で行われているような難病領域の特殊検査（遺伝学的検査を含む）の内部精度管理・外部精度管理への対応方法についての相談依頼があり、遺伝子委員会の宮地勇人担当理事が対応することが報告された。

6) 国際委員会報告（村上正巳 担当理事、小柴賢洋 委員長）

2018年度国際学会奨励賞について、応募者の審査を行い理事長に報告したことが報告された。

7) ガイドライン作成委員会報告（吉田 博 担当理事）

本日の理事会後にガイドライン作成委員会を開催し、年内に臨床検査のガイドライン JSLM2018 を発行する予定であることが報告された。

3. 関連団体報告

1) 日本臨床検査同学院（宮地勇人 日本臨床検査同学院 理事長）

平成 29～30 年度各種認定試験結果、緒方富雄賞授賞式及び記念講演会、POCT 測定者（仮称）資格認定制度検討のため POCT 部会を設置したこと、内閣府による法人面談後の進捗状況等について報告された。

2) 日本臨床検査専門医会（登 勉 日本臨床検査専門医会 会長）

2018・2019 年度役員体制、各種委員会活動報告、第 29 回（平成 31 年度）春季大会は、2019 年 5 月 31 日（金）—6 月 1 日（土）に、広島県医師会館（広島市）で、大会長：横崎典哉先生（広島大）のもと開催予定であることが報告された。

3) 日本臨床検査標準協議会（宮地勇人 日本臨床検査標準協議会：理事）

平成 30 年度事業計画、同年度 JCCLS シンポジウム、各種冊子の発行、各種委員会活動、三菱総合研究所再委託事業、平成 30 年度予算書について報告された。

4) 日本臨床検査自動化学会（谷直人 日本臨床検査自動化学会 理事）

2018 年度各種会議予定、2019 年 10 月 3～5 日（木～土）に、宮地勇人会長（東海大）のもと第 51 回大会が、2019 年 4 月 27 日（土）に第 33 回春季セミナーが高橋聡例会長（札幌医大）のもと開催予定であること、委員会活動、刊行物の発行予定が報告された。

5) 臨床検査振興協議会（矢富 裕臨床検査振興協議会 理事長）

2018・2019 年度の役員体制、医療政策委員会および付随の小委員会、診療報酬委員会および付随の小委員会、将来ビジョン委員会、広報編集委員会の紹介、活動内容等が報告された。

4. 第 65 回学術集会報告（東京 2018/11/15(木)～11/18(日)、村田 満 会長）（東條尚子 庶務理事）

2018 年 11 月 15 日（木）～11 月 18 日（日）に、京王プラザホテル（東京）において、村田満学術集会長（慶應大）のもと「新しい医療を支える検査の力」をテーマに開催予定であり、特別講演、招聘講演、特別企画、教育講演、共催シンポジウム、委員会企画、セミナーの概要が報告された。

5. 第 66 回学術集会報告（岡山 2019/11/21(木)～11/24(日)、通山 薫 会長）

2019 年 11 月 21 日（木）～11 月 24 日（日）に、岡山コンベンションセンター（岡山）において、通山薫会長（川崎医大）のもと開催予定であり、学術集会企画委員会での今後 3 年間におけるテーマの分担やシリーズ企画の進め方等について協議中であること、UMIN センターでの演題登録システム運用の検討をしていること、日本医学会連合からの連携フォーラム企画の検討依頼があったことが報告された。

・第 67 回以降の学術集会について

第 67 回（2020 年）は、岩手医科大学の諏訪部章先生が学術集会長であること、その後の第 68 回（2021 年）の学術集会長については、次回理事会で決定予定であり、該当する東海・北陸支部、関東・甲信越支部から推薦があれば、所信表明を A4 用紙 1 枚程度にまとめて、9 月末日までの提出依頼がなされた。

6. 2018年度全国検査部長・技師長会議について（村上正巳 総務担当理事）

第65回日本臨床検査医学会学術集会での全国検査部長・技師長会議は、公立大学が当番となり、2018年11月15日（木）15:00～16:30に、京王プラザホテルで、討議テーマ：「働く臨床検査技師の学術的キャリアアップのために」で開催予定であることが報告された。

7. 第11回特別例会報告（名古屋 2019/4/13(土)）（前川真人 特別例会長）（東條尚子 庶務理事）

第11回日本臨床検査医学会特別例会は、2019年4月13日（土）9:00～17:00に、名古屋国際センター（別棟ホール）で、前川真人例会長（浜松医科大学）のもと、テーマ：「臨床検査医学、次のディメンジョンの幕開け」として、特別講演、例会長講演、シンポジウム1、2、ランチョンセミナーを予定していることが報告された。

8. 第35回臨床検査専門医認定試験結果・会計報告について（東京 2018/8/4-8/5(土日)）（矢富裕 理事長、古川泰司 専門医試験実行委員長）

2018年8月4日（土）、5日（日）、帝京大学板橋キャンパスで、臨床検査専門医認定試験を実施し、受験者は合計23名（初回受験19名、全科目再受験3名、一科目再受験1名）であり、判定基準に則り、各受験者の合否判定を行い、合格16名、不合格7名（二科目受験者3名、全科目受験者4名）で、合格率約70%であることが報告された。そして、現時点の認定試験費用の収支概要が報告された。

9. 第10回臨床検査管理医認定試験結果について（矢富裕 審議会委員長、東田修二 管理医試験実行委員長）

2018年8月5日に帝京大学で、初めて臨床検査専門医試験と同時に第10回臨床検査管理医講習会・認定試験を実施した。年齢別では、30代5名、40代13名、50代12名、60代5名、70代4名の計39名が受験したが、昨年の19名から受験者が増加したのは、検体検査の精度確保の規定を含む医療法等の改正があったためと推測される。なお、当日、臨床検査専門医の紹介も行われたことが報告された。各受験者39名が合格基準に達しており合格と判定されたことが報告された。

10. 本学会からの関連団体委員推薦について（更新）（矢富裕 理事長）

前回、理事会7月7日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

1) 内科系学会社会保険連合 神経関連委員会

派遣委員：湯本真人 先生（2018/7/26に推薦）

2) 2018・2019年度JCCLS-ISOTC212（WG1～WG5）の当会からの担当委員14名（任期2018/4/1～2020/3/31）

3) 日本専門医機構

「基本領域研修委員会」「基本領域専門医委員会」「基本領域連携委員会」各委員として
山田俊幸 先生（2018/8/31に推薦）

4) 臨床試験医師養成協議会

理事：東田修二 先生（任期：2017/9の社員総会～2019/6/30）

その他：

第65回日本臨床検査医学会学術集会 検査医学会と日臨技の共催シンポジウム

日時：11月18日（日）9:00～11:00、会場：第1会場シンポジウム10

「医療法・臨検法改正への具体的対応と今後の課題」（共催：日本臨床衛生検査技師会）

・座長として村上正巳先生を、本シンポジウム4) 遺伝子関連検査・染色体検査に求められる具体的対応と今後の課題、演者として宮地勇人先生を推薦したことが報告された。

11. 第19回国際動脈硬化学会議 ISA2021 プログラム委員の推薦依頼について（矢富裕 理事長、吉田博 理事）

8月23日付で、第19回国際動脈硬化学会議 ISA2021 プログラム委員として、当会から吉田博先生、三井田孝先生の推薦依頼があり、8月27日付で当会として承諾で回答したことが報告された。

12. その他

1) 医師国家試験における臨床検査関連の表記に関して（要望書）_その後の状況（東條尚子 庶務担当理事）

2017年3月13日に、山田俊幸副理事長が本件要望書を厚生労働省に持参し要望していたことについて、その後、是正された事項、対応されていない事項など状況が報告された。

Ⅲ 審議事項

1. 第 64 回学術集會会計報告について（京都 2017/11/16（木）-11/19（土））（村上正巳 会長、古川泰司 会計担当理事、福武勝幸 監事）

第 64 回学術集會の会計報告が、村上正巳会長より収支報告書提示のうえ、なされた。古川泰司会計担当理事より、確認のうえ適切な報告内容との報告、福武勝幸監事より確認し適正であり問題なかったと監査報告があり、承認された。

2. 2018・2019 年度国際委員会委員の追加について（矢富 裕 理事長）

2018・2019 年度国際委員会委員 1 名追加の提案があり、任期開始は、3 月 23 日の理事会に遡って、承認された。

3. 2018 年度学会賞受賞者について（矢富 裕 理事長、松尾収二 学会賞委員会 担当理事）

学会賞委員会からの学会賞選考結果の理事長報告が提示され、協議のうえ、推薦された学術賞 1 名、検査・技術賞 1 名、若手研究者奨励賞 2 名、優秀論文賞 3 名が受賞者として承認された。

なお、若手研究者奨励賞の応募資格は、40 歳未満と規定されているがいつの時点であるかが明確でないため、協議した。学会賞委員会からの改定案は、応募開始日時点であったが、年度により日が変わるのは好ましくなく、年度で区切るのがよいのではないかと、受賞時とするのが一般的等の意見が出された。

また、優秀論文賞の受賞資格は、1 年以上の会員歴と規定されているが、今回、1 年に満たない方が候補者となったことについて協議した。優秀論文賞は、前年 1 年間に掲載された論文が対象となり、応募ではなく学会側で選ぶことより受賞者として認めてよく、応募資格としては、受賞年度に会員であればよいのではないかととなった。ただ、今後も会員として継続していただきたいという意見があった。

学会賞に係わる規定の改定については、学会賞委員会で、理事会での意見をもとに再検討いただき、次回の募集に間に合うように、今後の理事会に提示いただくこととなった。

4. 2018 年功労賞：河合忠賞の受賞者について（矢富 裕 理事長）

常任理事会から、理事を 10 年、2009 年に学術集會会長をされた名誉会員の松野一彦先生の推薦があり、満場一致で承認された。

5. 2018 年度国際学会奨励賞受賞者について（矢富 裕 理事長、国際委員会：村上正巳 担当理事、小柴賢洋 委員長）

国際学会奨励賞の受賞者は、原則 3 名以内と規定されているが、今回は応募者として 13 名と多数のうえ、上位 4 名が僅差であったため、4 名を受賞候補者とし、賞金については 30 万円を均等割けする提案があり、承認された。

6. 基準範囲に関する WG について（矢富 裕 理事長）

基準範囲に関する用語について、学会が指針を示すこと、そのため WG 設置の提案があり、承認された。なお、メンバーについては常任理事に一任することとなった。

7. 役員などの COI 自己申告書改定案について（通山 薫 利益相反委員会 委員長）

2017 年 12 月 23 日 12/23 に、細則、申告書を改定していたが、申告する期間が分かり難かったため、改定案が提示された。申告する内容が曖昧な部分、申告する対象も適切でない部分があると意見があり、修正することを前提に承認された。

8. 学会機関誌の web 版への移行について（矢富 裕 理事長、村上正巳 編集委員会 担当理事、古川泰司 会計担当理事）

編集委員会で英文誌の検討をしているが、実際に開始となった場合は、予算の都合もあるため web 版での発行とすることを検討している。また、現在の臨床病理誌についても、経費削減のため web 版への移行を検討する提案があり、承認された。

9. 委員会活動のホームページ掲載について（矢富 裕 理事長）

昨年より委員会活動について、当会のホームページに掲載してアピールしているが、新たな体制となったため、あらたに委員会に掲載内容の検討依頼をしたい。そして、掲載終了後に会員に紹介し、閲覧していただくようにした

いと提案・依頼がなされ、承認された。

10. 専門医制度関連事項について（山田俊幸 専門医担当理事、矢富 裕 理事長）

日本専門医機構の役員、各委員会委員長が交代となったこと、当会からの基本領域研修委員会、基本領域専門医委員会、基本領域連携委員会委員については、機構より同一人の推薦依頼があり、専門医担当理事でもある山田俊幸副理事長を推薦したことが報告された。

日本専門医機構での 2019 年度専攻医採用数のシーリングについては、当会は対象外であること、近日中に集約され、10 月中旬からプログラム制研修の専攻医募集が開始される予定であることが報告された。

1) 臨床検査専門医制度検討委員会（Subspeciality 検討小委員会）の今後

臨床検査専門医制度検討委員会の活動内容について、学会内外の Subspecialty 専門医など大局的なことを検討することが提案され、承認された。

2) 日本医学会への協力の更新単位付与について

臨床検査振興協議会（広報委員会）から、名古屋での日本医学会総会の際に、霞が関こどもデーのようなブースへの参加について、日本専門医機構専門医更新単位（iv 学術業績および診療以外の活動実績：1 単位）を付与する依頼があったことが報告され、問題ないとなり承認された。

11. アルブミン検査の標準化について（矢富 裕 理事長）

測定法を中心に、アルブミン検査の標準化に関して、学会として提言等を発するかどうかに関して議論され、継続審議となった。

12. 学会の国際化について（矢富 裕 理事長）

学会の国際化に関して協議し、アジアを中心に推進する方向性が承認された。具体的には、まずは、韓国との合同シンポジウムを来年の日本臨床検査自動化学会大会で実現できないかとの意見があり、次年度会長の宮地勇人理事に検討いただくこととなった。

13. 定時社員総会について（矢富 裕 理事長）

2019 年 3 月 23 日（土）に開催する理事会、定時社員総会の際に、2017 年と同じように講演会と委員会活動報告を行う提案（10-12：講演会、13-14：理事会、15-17 定時社員総会と委員会報告）があり、講演は、奈良信雄先生に臨床検査からみた医学教育を、前川真人先生にゲノム関連検査について、を考えていると提案された。

開催時間について、講演会、理事会、定時社員総会という順番だと、講演会に参加した社員（評議員）は、3 時間の待ち時間が生じてしまうので順番を変えたほうがよいという意見があり、順番は変更することとなり、以上、承認された。

14. UMIN オンライン学術集会演題抄録登録システムの継続運用について（矢富 裕 理事長、通山 薫 第 66 回学術集会会長）

UMIN オンライン学術集会演題抄録登録システムが今年で終了する予定であったが、日本医学会からの要望により、2019 年度 1 年限定、有料で継続運用を受け付け。その後はこの申込状況により再検討することとなった。当会の学術集会でもこのシステムの利用が有用であるとなり、申し込むことが承認された。

15. 日本医学会連合加盟学会連携フォーラム共催事業について（矢富 裕 理事長、通山 薫 第 66 回学術集会会長）

日本医学会連合の加盟学会間の分野横断的な連携・交流を深めることを目的に複数加盟学会による連携フォーラム支援事業に、2019 年度の第 66 回学術集会で参加する提案があり、承認された。ただし、日本医学会の基礎系あるいは社会系との共催であるため難しいが、通山薫第 66 回学術集会会長を中心に検討いただくこととなった。

16. My Page について（矢富 裕 理事長、東條尚子 庶務担当理事）

本年度より会員名簿の発行を止め、My Page を導入し、そこでの掲載を予定していた。今回、あらためて、導入について検討がなされ、承認された。今後、My Page で採用する事項と費用と合わせて検討して、再提案することとなった。

17. 学会の財政状況に関して（矢富 裕 理事長、古川泰司 会計担当理事）

この数年、経費削減、バナー広告の募集での増収など努力しているが、マイナス決算となっていること状況が報告された。会費を20年値上げしておらず、その間、消費税も上げられ、また、2019年10月に消費税が上げられる予定であることなどを鑑み、会費の値上げをせざるを得ないのではないかと考えていることが伝えられ検討された。会員数を増やすこと、新専門医制度でそれに付随する費用がかかっているため医師とその他で会費に差を付けることなどの意見があり、次回以降、具体的な提案をすることとなった。

学術集会の一般演題連名者の臨時会費納入が滞りなく納入されていないため、学術集会長から、一般演題登録者に徹底してもらえるように依頼することとなった。

18. その他（東條尚子 庶務理事）

次回以降の理事会、定時社員総会日程が報告された。

1) 2018年度理事会日程について

第4回：10月27日（土）13：30～16：30

第5回：12月22日（土）13：30～16：30

2) 2019年度日程について

2018年度に係わる定時社員総会および理事会：2019年3月23日（土）

IV 閉会の挨拶

閉会の言葉があり、本理事会は閉会された。

以上

2018年9月1日

一般社団法人日本臨床検査医学会 理事会

理事長

矢 富

裕



副理事長

山 田 俊 幸



監 事

福 武 勝 幸

